

相談室だより (米の山) 2014年2月

担当：米の山病院 MSW 渡辺

まだまだ寒い日が続きますが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？
今回の相談室だよりは、現在米の山病院もある、この高取地域での福祉力アップ構想についてと2/14に行われた2014年度の地域医療・介護連携懇親会の2本立てで書いていきたいと思いますので、しばらくのお付き合いをお願いします。



高取校区福祉力アップ構想とは？



高齢化や社会状況の変化により、地域のつながりは希薄となり、地域を支えるマンパワーは弱体化しています。そのため、孤独死や引きこもりなどの孤立化が目立ち始め、深刻な地域課題となっています。地域の各団体が住みよいまちにするために日々活動し地域課題を認識しているが、それに対してどのように対応していけばよいのか、また、次世代のマンパワーが見つからず、地域の将来に不安を抱えています。そこで、住民だけで課題を解決していくのではなく、校区内の医療機関や介護施設、行政などが連携して、地域課題を地域と一緒に考えていける一つの支援団体を作り上げて、その資源を活かした取り組みを行い、校区の福祉力を高めることで、地域住民が健やかに活発な生活を送れることを応援する仕組みです。

構成は？



高取校区内にある事業所として、米の山病院・大牟田記念病院の医療機関と介護施設である延寿苑に三池地区地域包括支援センター、高取校区社会福祉協議会、地域コミュニティ推進課を加えた支援団体となっており、この団体の活動を通して、校区の福祉力の向上、コミュニティ形成の支援を行うことにしています。ちなみに米の山病院からは、水田事務長を先頭に地域医療連携室の馬場師長と3人で毎月定例の会議に出席しています。



具体的施策



地域にあるコミュニティに対しての支援を行うことにしています。高取校区の老人会やサロンに出向き、医療や福祉に関する講座を実施することになっています。また、地域行事におけるサポート及び医療・福祉的なかわりを実施するなかで、徘徊模擬訓練のサポートや勉強会などの実施を支援していきます。親仁会はこれまでも友の会の方たちと地域に出向き講演や青空健康チェックを行ってきた経緯があります。徘徊模擬訓練でもみさき病院といういい模範があります。今後は米の山病院が地域に向けて率先して福祉力アップを目指して取組みをすすめていくことが重要です。すでにコメディカル部門からは、出前講座一覧をいただいております。米の山病院が地域でこういった講座ができるかを提出しています。今後はコメディカル部門だけでなく、医師・看護・事務の部門でも何か地域でできないかを検討していきたいと思えます。

さいごに・・・



昨年の10月にはじめて地域で集まって会議を開いて5ヶ月程度が経過しますが、まだこの取組みの名称が決まっていません。各事業所から名称についての募集があり、米の山病院からもいくつか名称を提出しています。来月あたりには名称も決まり、動き出すと思います。せっかくなので、この機会にぜひこういう取組みが行われていることを知ってもらいたいと思います。

米の山病院 地域医療・介護連携懇親会を開催

2月14日(金)に大牟田ガーデンホテルに於いて、「2014年米の山病院地域医療・介護連携懇親会」を開催しました。参加施設は、大牟田、荒尾、みやまを中心にした55の施設(30病院・25施設)から170名の参加がありました。法人内の事業所から28名の参加と米の山病院のスタッフを合わせ、全体で238名の懇親会となりました。



今回で7回目となる懇親会ですが、参加施設、参加人数ともに年々増えてきています。地域包括支援センターからも多くの参加をしてもらい、連携の重要性と期待の大きさを伺う事ができました。連携懇親会は2部構成となっており、1部の講演会では、大牟田市立病院の中山顯兒先生より、「地域医療連携を妨げるもの」と題して講演をいただきました。有明地域における医療の現状と今後の地域医療連携の取り組みについて、具体案を交えて話をしていただき、とても興味深い内容の講演でした。

2部の懇親会では、荒尾医師会藤瀬副会長、荒尾市民病院事業管理者大嶋先生からは、地域医療にかける熱い思いと、米の山病院への期待を込めた挨拶をいただき、あらためて地域連携の重要性を実感できました。

歓談では、医療や介護に従事されている多くの職種の方々が、職種を越え、また医療と介護の垣根を越え、お互いに挨拶や情報交換など懇親を深め、時間が足りないくらいの盛り上がりで有意義な会となりました。参加していただいた施設の方からは「アットホームな雰囲気で大変よかった」「毎年楽しみにしています」「悩みを聞いてもらうことができスッキリした」などの意見が聞かれました。

今後も、医療機関、開業医の先生、介護、福祉関係の皆様と一緒に連携を深めながら、患者さんを中心に、患者さんが地域の中で安心して住み続けられるように取り組んでいきたいと考えています。

